

尾瀬の植物と野生生物

尾瀬には多様な動植物が生息しており、重要な生態系地域となっています。この地域の高原や山々は、900 種を超える維管束植物と、小さなトンボからツキノワグマまでの多くの動物種の生息地となっています。溪流には、福島県檜枝岐村の珍味であるイワナなどの魚が豊富に生息しています。

国の宝

高山植物は大江湿原やその周辺に季節の彩りを添え、何世代にもわたって観光客を魅了してきた景観を作り出しています。初夏はレンゲツツジが赤橙色の花で景色を明るくします。盛夏はキンコウカ（ラン科の一種）とキスゲの黄色い花の季節です。秋にはナナカマドが赤い実をつけます。

植物学者で登山家の武田久吉（1883-1972）は、尾瀬を公に「国の宝」と称賛しました。彼は高山植物に関する多数の学術論文集を出版し、また尾瀬への初訪問の紀行文も発表しました。日本の植物学の父と呼ばれる牧野富太郎（1862-1957）もまた、尾瀬で研究を行い、植物標本を収集しました。

地域文化の源

イワナは檜枝岐村のコミュニティにとっておなじみの食品の一つです。フライ、塩焼き、刺身などの調理法で楽しむことができます。イワナの骨を焼き、そこに熱燗を注げば「骨酒」と呼ばれるお酒の出来上がりです。また、焼いたイワナの身は、ご当地味噌のひとつである「岩魚味噌」を作るためにも使われます。